

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの名称である花水木に擬えた施設独自の理念を掲げ、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を図っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の職員一人ひとりが理念に沿った目標を持ち、利用者様それぞれのケアに反映できるよう取り組んでいる。困難事例が生じた時にはミーティングを行い、理念に基づいたサービスを提供できるよう努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族等に、運営推進会議や行事に参加された際に理念を伝えている。また、施設見学の機会にも分かりやすく説明したり、ホーム便りを活用して理念の浸透に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。施設においても、気軽に立ち寄りいただけるよう玄関周りに季節の花を植える等の雰囲気作りにも努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭り等には、利用者の皆様と一緒に積極的に参加している。デイサービスやショートステイの利用者の方々にも行事に参加していただき、また、近隣の保育園をクリスマス会に招待するなど地域との交流を深めるよう努めている。	○	保育園をはじめとした地域との交流を深めていくために、現在利用者の皆様と職員で一緒に雑巾を作り、保育園の子供たちや地域の施設等にプレゼントすることを企画中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者の介護者や利用者のご家族を対象に、事業所で開催する認知症ケアなどの勉強会への参加を呼びかけている。また、地域のさまざまな研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員全体で理解し、自己評価に取り組んでいる。また、自己評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けての具体案を検討し、実践するための努力を行なっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに、外部参加者から出された質問、意見、要望を受け、より良い介護サービスを提供できるよう心がけている。また、改善策、結果についても報告し、サービスの向上への取り組みを行なっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも、市町村担当者と事業所の近況やケアサービスへの取り組みについて折に触れ相談し、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修会に参加しているが、今のところ、実施するケースが発生していない。	○	対応が必要と思われる利用者様に、いつでも活用できるよう積極的に研修などへの参加を行い、今後も継続して理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等において、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、その理解や尊守に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>今後も、入居者様の訴えに耳を傾けることへの重要性を常に留意し、その訴えを職員全員で共有できるように、記録を整備し、ミーティング等話し合う機会を作り運営に反映させるよう努めていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等には職員が交代で参加している。また、近隣の事業所とで連絡協議会を発足し、できるだけ多くの職員が参加出来るような研修を、計画実施している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣地域の事業所と協力し、密着型サービス連絡協議会を定期的開催し、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また、他の事業所と行事を通して交流を行い、相互のサービスの質の向上を目指している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の会話や面談時に職員の悩みやストレスを把握するように努めている。また、職員同士の人間関係を把握し、食事会などで親睦を深めるなど働きやすい職場環境作りを行なっている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員と連絡帳のやり取りで、日々の状況や変化を知り、現状の理解に努めている。また、定期的に現場を訪問し、職員とのコミュニケーションを図っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス利用開始前より、自宅訪問やホームの見学等を行い、できるだけご本人と直接向き合う機会を設けている。また、ご本人の状態の把握や思いを受け止め、職員がご本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでのご家族の苦労や、今までのサービス利用状況など入居に至るまでの経緯について、十分な話を聞くようにしている。また、ご家族の要求に対して、事業所としてはどのような対応が最適かを事前に話し合うようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、ご本人やご家族の状況や思いを把握し、必要に応じて他の事業所や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネージャーとも連携しながら、必要なサービスが利用できるよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用の開始に際しては、事前に施設見学をしていただいたり、自宅訪問により職員との面識を作るなどして、ご本人の精神的身体的状態に合わせた利用開始を行なうようにしている。やむを得ず急遽利用になった場合は、ご家族や利用者様と親しい関係者の方に協力を依頼し、安心感を持って利用していただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員全員で共有し、普段から利用者様に教えてもらえる機会作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族とのコミュニケーションを密にとり、日々の暮らしぶりや出来事など利用者様に関して気付いた事など連絡し、情報を共有し、密に連絡を取りながら協力して、よりよい生活支援を行なうよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の利用者様への思い、利用者様のご家族への思いを受け止め、両者の思いが結びつくような働きかけを心がけている。(両者に無理のない外出・外泊支援、行事等一緒に過ごす時間作りなど)		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が昔から利用している美容院を利用するなど、馴染みの場所や知人、友人等との継続的な交流ができるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様それぞれの間人間関係を把握し、仲良く過ごしている時間を大切にしながらも、日々変化する感情や状況を常に把握し、関係が円滑になるような働きかけを行なうよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了時、最後までご家族や利用者様の思いに寄り添い、サービス利用の間に培われた関係性を今後も継続したいことを伝え、季節の行事へ招待するといった関係の継続に努めている。	○	サービス終了後のご家族より、ボランティアや行事等への参加を希望される言葉もあり、今後も行事等への案内をしない、関係の継続を図っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、常に利用者様の言葉や表情に気を配り、利用者様の真意を汲み取るよう心がけている。また、意思疎通が困難な方には、その時々のご本人の動作や表情等から推察し、関係者で話し合いながら適切なケアを提供するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に自宅を訪問したり、利用者様本人やご家族、関係者などから詳しく話を聞き、情報収集を行っている。また、入居後には、利用者様を担当する職員が中心となり、利用者様本人やご家族等と馴染みの関係を築きながら状態把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様それぞれに自立した生活を送っていただくという視点で全職員が、一人ひとりの利用者様の生活スタイルを把握し、出来ないことより出来ることに注目し、利用者様それぞれの能力の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様が自分らしく暮らせるよう日頃の接する中で聞いたその思いや考えを介護計画に反映させるようにしている。また、各担当職員を中心に、それぞれの課題について関係者の意見を含めて職員全体で話し合った結果を介護計画の作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、利用者様ご本人及びそのご家族の要望や状況の変化に応じて、随時介護計画の検討、見直しを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づいた利用者様の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、定期的に個別記録を基に介護計画の見直し、評価を行なっている。	○	記録から、利用者様の思いや状態がわかるよう、また、職員が得た情報について具体的にわかりやすく記載できるよう、記録の仕方について勉強会を開き、全職員が同じ水準で記録できるよう努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様本人・ご家族の状況にあわせて、通院や送迎等必要な支援を柔軟に行っている。また、その時々々の要望に応じて、外出・外泊、墓参りやふるさと訪問等もできるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や、近隣の警察官、またボランティアの方々には、季節の行事や消防訓練などへ参加していただき、意見交換を行っている。また、近隣の保育園の子供達と一緒にクリスマス会を行ない、交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業所と連携をとり、意見交換を行い、必要なサービスを受けられるように努めている。また、地区の民生委員のボランティアの方々をお願いして、利用者になじみのお菓子作りを一緒に行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターや伊佐市の職員が参加するようになり、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する主治医がかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、ご家族等の状況にあわせて柔軟に対応している。また、必ず利用者様本人の状況を把握している看護師が同行するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関の医師が物忘れ相談医であり、日頃から何かと相談し、指示や助言を受けている。それでも困難な事例に対しては、ご家族と相談した上でその希望する専門医を受診するようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設職員に2名の看護師を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態変化に応じた対応を行えるようにしている。また、隣接する医療機関との連携も密にとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、利用者様への支援方法に関する情報を、介護サマリーとして医療機関に提供している。また入院中は、交代で職員が見舞うようにし、早期退院に向けてご家族や医療機関との連携を密にとるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について指針を定め、ご家族・医師・看護師を交えて話し合いを行なっている。また、状態変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化や利用者様本人の思いに注意を払い支援につなげている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者様やご家族の方々が安心してサービスを受けられるよう、状態の悪化や急変時における事業所の「対応できること、できないこと」を明確に伝え、十分な話し合いを持つように努力している。また、急変した場合はすぐに対応して頂けるよう提携医療機関とも密に連携を図っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居されるときには、できるだけ自宅を訪問しご家族や関係者からの情報収集を行い、居室に馴染みのある家具を持ち込む等、リロケーションダメージに配慮した支援を行なっている。	○	今後、住み替えを希望される利用者様に対しては、これまでのホームでの生活や支援の内容、注意が必要な点についての情報提供を行い、きめ細かい連携を図りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から研修やミーティングを重ね、職員各自の意識向上を図り、利用者様との日々の関わり方を省みて、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様個々に応じた声掛けを行いながら、表情を読み取り些細なことでもご本人が決定できるよう支援している。	○ 職員一人の考えで行動せず、チームとして協力しながら利用者様の思いや希望を表出しやすいような環境づくりに配慮したケアが行えるよう、ミーティング等で職員の意識向上を図りたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、その時の利用者様それぞれの気持ちを尊重し、個別性のある支援を行なっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着がえや整容はできるだけ利用者様本人の意向を尊重しながら支援している。また、それぞれの馴染みの美容院の利用や毛染めなど昔から行っていたおしゃれが継続して行えるよう配慮している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予めメニューを決めているが、利用者様の希望にあわせて必要に応じてその都度変更できるようにしている。また、利用者様の誕生日には、希望を聞いて、特別メニューを取り入れ職員と利用者様が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日のお茶の時間には、好みのおやつや飲み物を出すようにしている。お酒の好きな利用者様には、ゆっくりと晩酌が楽しめるような環境作りを行うなどの支援を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、時間や様子に合わせて声かけや誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。また、車椅子を利用されている利用者様に対し、能力を見極めながらトイレで排泄できるよう、リハビリを受けるなど排泄自立支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者様個々の意向を取り入れながら、体調に配慮し、入浴していただいている。入浴を拒む方にはスタッフ同士連携をとり、声かけに工夫したり、安心して入浴できるような雰囲気作りに努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご家族から、これまでの生活習慣についての情報を把握し、利用者様のその時々状況にあわせ、本来の生活リズムで過ごせるよう配慮している。寝付けない入居者様に対しては、優しく声掛けし、お飲み物をお出ししたり話をゆっくり聞く等の支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じて梅園見学、桜の花見などを行い、季節の移り変わりを肌で感じられるよう支援している。また、梅漬け、ちまき作りなど入居者様の知恵や経験を発揮できるような行事を企画している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、利用者様ごとに、ご家族の了解を得てホームで管理しており、行事や外出の時にはお渡しし、できる限りご自分で支払いをして頂くよう支援している。利用者様の状態により、ご家族と相談した上で、ご自分で小額の金銭管理を行なっている利用者様もいらっしゃる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら、散歩や買い物などに行く機会を設けている。また、日向ぼっこや、夕涼みなどができるよう玄関周りに花を植えたり気軽に休めるような椅子などを設置するなどの配慮をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様本人の意見を聞き、行きたい場所があれば、ご家族等の協力を得ながら、出かけられるよう支援している。どうしても不可能な場合は、その場所の写真をとり寄せて、思い出話を聞く等の支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望、要望の電話や、ご家族知人等からの電話などにも時間に関係なく対応している。家族への手紙も、利用者様の現状報告や各行事などの内容、取り組みについてもご本人の思いを添えて随時送付している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間については、特に制限は設けていない。いつ何時でも気軽に訪ねて頂けるように配慮している。また、ゆっくりと寛いで話して頂けるよう、居室へ案内し、お茶などをお出ししている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員の共通理解のもとに身体拘束による利用者様の受ける身体的、精神的苦痛の無いケアを実践している。また、ミーティングや申し送り等でも確認事項として取り上げている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様の基本的な人権を尊重し、一人ひとりの日常生活の状態を把握しながら、目配り、見守り等で入居者様の安全面に配慮し、自由に安心して過ごして頂くように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時全職員で目配りに努め、連携を図り、利用者様にストレスのないよう配慮しながら所在や様子を把握するよう努めている。夜間は定期的な巡視を行う他、その日の状態や体調にあわせた様子確認を行い、起きておられるときなど、状況に応じて安心していただけるような対応を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	使用時に危険が生じるような物品など、利用者様本人の同意のもと、保管、管理している。利用者様の状況に照らし合わせながら保管すべきもの、管理が必要なものを区分けして管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	不安定な歩行者への転倒予防や食事の摂取状態の悪い方への介助方法など、利用者様一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。また、ヒヤリハットや事故報告に基づき職員間の認識の共有を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救命手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が必要な対応をとれるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管轄の消防署や警察、近隣住民の方々にも参加していただきながら利用者様を含めた避難訓練を定期的に行なっている。	○	次回の避難訓練では、利用者様全員の避難に要する時間を計測する予定である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な日常生活動作や外出などにより生じるリスクは高くなるものの、日々の生活の中で利用者様がそれぞれに応じた役割を担い、自由な生活を過ごすことで、一人ひとりの表情が明るくなり安心感や充実感を持って生活することができることをご家族に説明し、理解を得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックだけでなく常に利用者様の状況を把握し、少しでも食欲や顔色、様子などに変化が見られた時には、直ぐに管理者や看護婦に報告し状況により医療受診し、早期対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、利用者様一人ひとりの内容を職員が把握し、服薬時には個々の利用者様の状況に合わせた方法で確実に服用していただけるよう工夫している。薬の変更があった場合には、看護師を中心に症状の変化や副作用の出現などに注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、毎日チェックを行い、利用者様一人ひとりの排泄状況の把握を行っている。便秘がちな利用者様に対しては、下剤だけに頼らず、適度の運動や食材メニューの工夫を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔を保つために、毎食後利用者様それぞれに応じた歯磨きの手伝いや、入れ歯の手入れなどの支援を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事量や水分量の摂取状況を記録し、職員間でその情報を共有しながら、必要な栄養や水分が摂取できるように支援している。また、現在1名の糖尿病の方がおられるため、栄養士の専門的なアドバイスを受けながら食事の提供を行なっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりえる感染症について、感染予防マニュアルを作成し、情報収集を行い、また、ミーティングでも採りあげ、予防と対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の清潔に留意し、まな板や雑巾は毎晩漂白し、清潔保持に努めている。冷蔵庫の掃除、食品の期限の点検を行い新鮮で安全な食材の提供を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺には季節毎の花を植え、入り口には手作りの表札を飾り、屋外用のテーブル、ベンチなどを設置し、アットホーム的な雰囲気作りに留意し、気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やダイニングなどに利用者様に季節の草花を生けて頂いている。また、廊下の壁には各種行事の写真等を掲示し、ご家族などが面会時に見て頂けるよう配慮している。また、季節感を味わって頂ける様に、利用者様と職員が一緒になり、季節のある品物を飾り付けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングは一番の共有空間であり、ソファやテーブル、椅子等を置き、利用者様同士ゆっくり過ごせるように配慮している。また、玄関や廊下にも椅子を置き、利用者様それぞれが自由に休憩できるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ馴染みのある家具や道具を利用者様やご家族の協力を得てホームでの生活に活用している。写真やアルバム、日用品をご自分の居室に運んでいただき、落ち着いた環境の中で居心地良く過ごして頂ける様に配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の皆様に不快な思いを与えないよう配慮しながら、換気を適宜行なっている。また、北側、南側の居室やダイルームに温度計、ダイルームと各居室に加湿器を設置し、室温湿度調整を行なっている。消臭剤も刺激の少ない物を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の手すりやトイレ、廊下などの安全性を見直し、安全確保に留意している。居室に関しては、利用者様の現在の状態に応じ、安心して過ごして頂けるようタンスやベット等の移動を行ないながら自立支援を行なっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員全員が利用者様の一人ひとりの能力を把握しながら、混乱や失敗などが生じた場合には、その都度ミーティングで取り上げ、原因や不安材料などを話し合い、改善に努めている。また、その際利用者様のできる能力に着目し、その有する能力が発揮できるよう支援を行なっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前にテーブルとイスを配置している。また、同敷地内に家庭菜園を作り、利用者の皆様の助言のもと、職員とコミュニケーションを図りながら、楽しく活動できるような環境作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、入居者様が持ちえる能力を生かして自立した生活を送ることが出来るよう、連携医療機関の協力の下、個々の利用者様に合わせたリハビリに力を入れています。また、入居者様が長年住み慣れた地域で、自分らしく誇りを持ち、主体的で穏やかな生活が出来るようにとの思いを「花水木の心」として理念に掲げ、日々のケアを行っています。特に、入居者の皆様が四季の移ろいを感じながら、毎日の生活を楽しんでいただけるように、ちまき作りや梅漬けなど利用者様の経験を生かせるような活動や、敬老会、忘年会、入居者様の誕生会など季節毎に行事を開催しています。季節の行事には近隣住民の方々や入居者様のご家族を招待し、相互の交流を図り、地域に根ざしたホーム作りを心がけ、近隣地域が共同で入居者様の生活を支援していけるような関係作りに努めています。